

# 4N銀コイルやボロン製カンチレバーを採用 KUZMA製品の伝統を踏襲したMCカートリッジ

Text by 鈴木 裕  
Yutaka Suzuki

03



## KUZMA CAR 40

MCカートリッジ  
¥480,000 (税別)  
※組み合わせているトーンアームは同社製の「Stogi S」

**ボロン製カンチレバーを採用  
剛性感の高いMCカートリッジ**

スロヴェニアの高級アナログプレーヤーメーカー、クズマ。筆者もそのプレーヤー、スタビスコンプリートシステムIIを使っている（現在はIII型に進化）。音もいいが、その前にまず造りがいい。基本的に無垢の真鍮やアルミ材から削り出したパーツがほとんどで、高剛性思想といったものが貫かれている。たとえばトーンアームのスト

ーギスの先端、カートリッジを取りつける部分も削り出したが、高い剛性がほしい、というのがよくわかる形状だ。黒く塗装してあるため削り出しとわかりにくい、が、そういうことを誇示しないメーカーなのだ。同価格帯の製品と比較した時にコンパクトでエラそうではないのだが、精度にしても細部の仕上げにしても格が違うと感じることがある。

そんなクズマのMCカートリッジ、CAR-40を紹介したい。フランツ・クズマ氏が設計し、50年以上の経験を持つ日本のメーカーの協力を得て製造されていると

いう。まず特徴的なのはそのボディで、アルミの削り出しの上部に真鍮のプレートがはまっている。見た感じでは鍛造しているかのようだ。重量は17gとやや重め。スタイラスはダイヤモンドのマイクロリッジ針で、カンチレバーはボロン。コイルは4Nの銀で巻き、インピーダンスは6Ω。ここから0.3mVの出力を発生する。

**低音感が良好で安定感があり  
倍音の伸び方もよく出ている**

テストは拙宅で行なった。その音はひとこと言うと、ハイファイ性能と温かみのあるトーンが両立しているものだ。ミュージカルティがある、という言葉を使ってもいい。金属ボディのスクエアなデザインだが、聴きながら思い出していたのは、スポーツカーはシャーシの剛性が高いほどサスペンションが設計通りに作動し、グリップも乗り心地も良くなるという話だ。CAR-40は音に安定感があり、低音感もけっこう高い。高域はこれみよがしに伸びている感じがなく、ソロヴァイオリンの高域の倍音の伸び方はきち

### DETAILS



真鍮とアルミの複合体ボディが採用されている。質量は17g



本機の上位モデルとなる「CAR-50(¥1,100,000/税別)」もラインアップされている

### Profile

「CAR-40」は国内で取り扱われているラインアップの中では、上位モデルである「CAR-50」に続く位置づけのモデル。全モデル共通の真鍮とアルミの複合体ボディにボロン製カンチレバーや4N銀のコイルを採用している。

### Specification

●タイプ:可動コイル ●コイル線:4N銀 ●カンチレバー材質:ボロン ●スタイラス:マイクロリッジ針 ●周波数レスポンス:10Hz~40kHz ●出力電圧:0.3mV ●チャンネルバランス:(1dB ●チャンネル分離)28dB ●針圧:2.0g ●コンプライアンス:10×10-6cm/dyne ●トラッカビリティ:70μm ●インピーダンス:6Ω ●負荷インピーダンス:100Ω ●質量:17g ●取り扱い:シーエスフィールド様

### 使用機材

- アナログプレーヤー/クズマ STABI S COMPLETE SYSTEM II
- プリアンプ/サンバレー SV-192A/D
- パワーアンプ/サンバレー SV-2PPM-6200
- スピーカーシステム/ソナスファベール ELECTA AMATOR III

### 試聴ソフト

- 「ワルツ・フォー・デヴィ、ビル・エヴァンス・トリオ」
- 「アンブラグド/エリック・クラプトン」
- 「ブラームス:ヴァイオリン協奏曲/ナタン・ミルシテイン、オングエン・ヨッフ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」

広いサウンドステージの中に濃密な空気感を持ち  
音質だけではない楽曲の背景にある音色感も表現